

令和 2 年度事業報告書

社会福祉法人 南都栄寿会

令和2年度事業報告書

社会福祉法人南都栄寿会

新型コロナウイルスの影響により有効求人倍率は過去20年で最も低く、厚生労働省によると2021年3月の有効求人倍率は1.09倍となっています。

昨年から景気が大きく後退し、新型コロナウイルスの影響によるコロナショックはあらゆる業界へ一気に打撃をもたらしているため、不況が長引き、経済へのダメージは、リーマンショック時以上のものになることも予想されます。

「新しい生活様式」の提言により、他業種では人と人との接触を減らすためにテレワークの推進等が進められていますが、介護業界では実施できないため、今後も手洗いやマスクの着用と人と人との距離の確保等基本的な感染対策を続けて参ります。

当法人においては、感染予防の観点から在宅部デイサービスの利用者数を制限した運営を余儀なくされ、大幅な減収となりましたが、高齢者の生命を守るための努力は今後も継続しなければなりません。

コロナショックにより、全産業的に離職者数は増加傾向にあるものの、介護人材につながるケースは少なく、介護業界は全国的に大幅な人材不足となっており、事業経営の見通しが立ちにくい状況になっています。

また、働き方改革による労働者の有給取得、超過勤務時間の上限が義務付けられ、人材不足の中でかなり厳しい状況となりました。

今後も様々な制限が強いられることから厳しい状況が続くことが予測されます。

この様な状況化で、2020年度はオンライン面接を実施し、特定技能実習生の獲得を進めました。現状では渡航制限により入国できない状況となっていますが、制限が緩和すれば速やかに入国手続きを進め、課題である介護人材不足の緩和に努めてまいります。

今後も課題は多く厳しい状況が続きますが、西ノ京苑をご利用になる全ての方々が暮らしへの満足を得られるよう、さらなる質の向上を目指します。また、経営面の安定を図るため3密回避等の感染予防を徹底して参ります。

令和2年度業務報告書

I 特養部

1 重点目標

- ① 個別性重視したケアの見直しと介護技術の向上
- ② 必要な支援の抽出とニーズに沿ったケアの継続
- ③ 指導者の自己啓発と職員が成長できる環境づくり
- ④ 感染症予防に対する対策強化

2 事業の結果

① 個別性重視したケアの見直しと介護技術の向上

令和2年度は重点目標の具体的内容として、a) 排泄介助方法の見直し、b) 口腔ケアへの取り組み、c) ポジショニングと体位変換の統一のアプローチ、d) ご利用者に合わせて環境づくり、の4点に重点を置き、取り組んできました。

まず、a) 排泄介助方法の見直しでは、ご利用者一人ひとりの排泄チェックシートを作成したことで、一定のご利用者に対して排泄介助方法の統一を職員間で図れるようになったほか、トイレに必要な物品を揃え整理整頓を行い、綺麗な状態を保つようにしたことで、ご利用者全員が清潔な環境で排泄ができるようになりました。

b) 口腔ケアへの取り組みでは、令和2年度から歯科衛生士による口腔ケア研修を毎月受講し、知識技術の向上に努めています。口腔ケアの重要性を理解し、口腔マッサージに取り組むことで、一部のご利用者ですが、嚥下機能の低下を防ぎ、誤嚥性肺炎の防止につながることができました。

c) ポジショニングと体位変換の統一のアプローチでは、介護職員それぞれの考えで行っていたポジショニングや体位変換を職員全員が共通のケアができるよう、ポジショニングのファイルを作成し、介護技術向上チームが中心となって現場職員へ直接指導を行いました。

d) ご利用者に合わせて環境づくりでは、居室内にご利用者個人の物を増やし、なおかつ安全に過ごせるように手すりなどをしつらえ、ご利用者自信が安全に動けるようにしました。ご利用者ともコミュニケーションをとりながら、ニーズを汲み、できる限り応えられるようになりました。

② 必要な支援の抽出とニーズに沿ったケアの継続

アセスメント方法やケアプランの様式を変更して、見やすく理解しやすいようになりました。担当職員がケアプランを基にケアの提供ができるようになり、カンファレンスもご利用者中心とした内容で進むようになりました。

昨年度から取り入れた記録の電子化では、タブレット入力に引き続き取り組んでいます。内容についてはご利用者の行動、発言に対して職員個々が感じたことを入力し、記録を見てご様子が把握できるようになってきました。また、下期からは F-SOAIIP という記録法を学び、生活支援につなげられるような入力に取り組んだ結果、徐々にではありますが、記録の内容をケアプランに反映できるようになりました。

③ 指導者の自己啓発と職員が成長できる環境づくり

役職者がマネジメント力を向上するために、毎月テーマをあげて勉強会を実施し自己啓発に努めました。各自テーマ内容に沿って勉学に励み知識を取り入れたことにより、指導に際する発言内容にも変化が生まれてきました。

施設内研修はコロナ渦の影響によって職員間の密を避けるために映像で記録したものを個別に見てもらえるよう整備し、DVD 研修という形で実施しました。

④ 感染症予防に対する対策強化

今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、職員は自身の健康管理は勿論のこと、現場ではマスク、防護服、ゴーグルの着用を徹底しました。また、検温、アルコール消毒を徹底して行った結果、感染者はゼロで過ごすことができました。これは感染症対策委員が中心となって感染症予防周知してもらうために研修や動画配信するなど、試行錯誤した結果だと思えます。

3 課題

ご利用者の排泄ケアでは、排泄間隔の調査までいたりませんでした。来年度は作成した排泄チェックシートをもとに他職種と連携しながら排泄ケアの実践計画を立て、継続的な PDCA サイクルを確立します。

コロナ渦の影響によって歯科衛生士から職員に向けての直接指導ができなかったこともあり、来年度は歯科衛生士が現場に入っの直接指導を受けられる体制を考慮し、介護職員の口腔ケア技術のレベルを上げていきます。

ご利用者の床ずれや発赤の件数は減らず、来年度の課題として残りました。方法だけ周知し、経過観察を怠ったことが原因と考えています。来年度は介護技術向上チームと危機管理委員が連携を図り、予防と早期発見を目指します。

介護技術向上では、職員一人ひとりの課題を抽出しきれず介護技術の向上には必ずしもつながらない結果となりました。コロナ渦で職員間の交流を控えたこと、介護技術向上チーム内での報連相が足りなかったことなどが要因となり、個別指導に結びつけられなかったことが原因です。チーム内での共有と連携が課題として残りました。

ご利用者のカンファレンスを行い、ADL の維持・向上に向けて日常生活の中でリハビリを検討しましたが、コロナ渦によって行動範囲に限りがあり、ご利用者の ADL は全体的に低下しました。来年度はコロナ渦の中でご利用者が主体的にできることを洗い出し、

ADL の改善に向けて取り組みます。また、カンファレンスの結果を PDCA サイクルとして確立し、ご利用者の日常生活が潤うようにしていきます。

記録の使用方法や項目についての議論を行い、改善できましたが、記録の内容や効率化については不十分なまま終わりました。実践結果の職員間での共有に課題が残っています。

職員個々のスキルが上がるように指導者同士での勉強会を実施しましたが、指導者層のスキルアップに目を向けていたため、職員へのマネジメントする機会を十分つくることができませんでした。来年度は個人面談等の機会を設け職員一人ひとりのマネジメントに注力します。また職員の自己啓発にもつなげていきます。

ご利用者同士の交流ができず、外出、外泊、面会を大幅に制限したことによって、ご利用者の精神的ストレスや ADL の低下などが目立ちました。来年度はユニット内での余暇活動、機能訓練活動を考え、ADL 維持向上とストレス解消ができるように考えます。

4 自己評価

事業計画内容を基にお互いの立場をわきまえ、他職種同士が連携を意識して業務に携わりました。

今年度はコロナ渦によってご利用者への面会制限やケアの制限を設けたことにより、ご家族様へご心配をかけないようアプローチを心掛けました結果、特に苦情や要望もなく過ごすことができました。来年度は感染症対策員と看護師と連携を図り、感染対策をしたうえで、ご利用者の制限を徐々に緩和して行動範囲を広げていくようにします。

また、危機管理委員から職員へ直接の指導もあって昨年度より、事故件数は減少し事故が原因での入院する方もおられませんでした。

令和 2 年度も慢性的な人出不足の状況であり、ご利用者個々人のことやユニット内で発生する問題への対応に追われ、職員へのマネジメントができずに終わりました。来年度は計画を立て、効率的な事業運営を意識しながら、目標実現に向けて動いていきます。

II 医務室

1 重点目標

- ① ご利用者及び職員の健康管理
- ② 医療職－他職種間の連携と教育
- ③ 皮膚トラブルへの働きかけ

2 事業の結果

① ご利用者及び職員の健康管理

医療、看護を提供する際の事故は、本年度5件であり、目標は達成できませんでした。さらに、前年度の3件より増加してしまいました。

内訳は、糖尿病患者様へのインスリン単位間違い1件、膀胱留置カテーテル挿入時の間違った手技による出血1件、爪切り時の皮膚損傷による出血3件でした。これらはDr.指示の確認不足、処置の技術不足が原因であると考えます。

嘱託医とともにご利用者の健康状態を観察し、異常の早期発見と対応に努めました。また、必要時は受診、入院、看取りの対応を行ない、その際、ご本人、ご家族の意向を尊重しました。その結果、クレームはなく目標は達成できました。

ご利用者を苑で看取る時は、感謝の言葉を述べる家族様が多かったです。健康状態に関して、嘱託医、生活相談員とともに適宜説明を行ったことが結果につながっていると評価します。

ご利用者の入院回数を減少することについて、目標を達成できませんでした。

入院回数は38回(3/31現在)であり、昨年度の27回よりも増加してしまいました。入院理由の診断内訳は、誤嚥性肺炎13件、脳梗塞4件、蜂窩織炎4件、腸炎・胆嚢炎4件、腸閉塞3件、骨折2件、尿路感染2件(入院はせず、抗生物質で改善した件数含まず)、心不全3件、貧血1件、下痢脱水2件でした。原因は様々ですが、予防できたケースもあったと考えています。

感染症拡大の防止については、目標を達成できました。

今年度は新型コロナウイルスの感染防止を常に考えながらご利用者の生活をサポートしてきました。幸いなことにご利用者・職員からの発症は0名であり目標は達成できました。昨年度2名発症していたインフルエンザは0名、ノロウイルスも昨年度同様で0名でした。新型コロナウイルスが奈良県で蔓延し始めた早期から、個人防護具(マスク、ガウン、ゴーグル)を取り入れたこと、職員の感染症への理解や手洗い、アルコールの手指消毒、うがい、3密の回避などを実践したことが効果的であったと評価します。

② 医療職－他職種間の連携と教育

各ご利用者様のカンファレンスでは、医療・看護面での情報提供を行い、担当ケアマネジャー・現場職員を中心に、一貫した介入ができるように働きかけました。マンパワーが

不足している現場で、食事介助や入浴など、ご利用者のニーズを充足するために現場職員と協力して働きかけたこと、その過程で気づいたことはその場その場で現場職員へ伝え、介護の質向上に働きかけたことは効果的であったと評価します。

施設内研修では、「高齢者疾患」、「看取り」、「感染予防の対策」、「褥瘡防止」、「心肺蘇生」、「胃婁・吸引」の項目を行いました。新型コロナウイルス予防の一環として研修は全てDVD観賞で実施しました。

現場職員の状況に合わせた内容にすることで、理解度、技術習得の向上を図りましたが、研修後の各職員への質問では、職員により正しい答えや技術の実践ができるものもあれば、できないものもありました。理解度や技能にばらつきがあり、統一した効果を得ることができず目標は達成できなかったと考えます。

今年度は、新型コロナウイルスの予防への働きかけが不可欠でした。当初、個人防護具の装着忘れなど、意識付けが不十分な職員の行動を見受ける場面もありました。研修や声かけを適宜行なうことで、現在は皆が重要事項であること認識して、予防対策の実践を行ないながら介護を提供できていると考えます。

「ほのぼの」導入以降、情報の共有化を図ってきました。できていること、できていないことは様々ですが、導入前との比較で紙の削減、効率化という面で効果が出てきていると感じています。

③ 皮膚トラブルへの働きかけ

皮膚科往診の受診者数を減らすことを評価基準に掲げていました。受診者数に波はあるものの、横ばいで経過しており目標達成はできませんでした。

褥瘡の発生防止のために研修を行い、褥瘡とは何か、そのリスク因子、予防策を内容に含めて説明しました。さらに、固定枕を使ったポジショニング、2時間以内の体位変換を徹底できるように、他職種とともにご利用者の個別カンファレンスに参加してアドバイスを提供しました。その後、日々の観察で評価をしましたが、介護職員は必要性、実施方法を理解しているように見受けられる一方で、実践の確実性に欠ける印象があります。

ご利用者様には、痒みを訴える方が多くいます。内服と軟膏の与薬、掻き傷防止のために爪きりの徹底を促しました。実施はできたのですが、それを習慣化するまではできなかったため、定期的に声かけを行なう必要がありました。

食事時の食べこぼしや唾液が服に残存することで、皮膚かぶれにつながるケースもありました。服の汚染を防止するために適切なエプロンの使用、食事介助の実践について声かけしました。少し改善は見受けられますが、これも同様、習慣化に到達することはできませんでした。

3 課題

① ご利用者及び職員の健康管理

医療、看護を提供する際の事故は、対策により防止できる事故であったと振り返ります。

具体的には、インスリン指示のダブルチェック、処置手技の確認により防止できたケースでした。今後の再発防止に努めたいと思います。

ご利用者の健康状態の管理と異常の早期発見、看取りについてのクレームはなく、感謝の気持ちを伝えてくださるご家族様もおられました。しかし、振り返ってみると、もっと早期から深い介入を実践できたと思うケースがありました。今後ご利用者、ご家族と良好な関係性を構築し、満足度の向上に努めたいと思います。

ご利用者の入院回数の減少に働きかけましたが、基礎的な日常生活の介助が不十分であることが原因のケースもありました。転倒防止、口腔ケア、陰部洗浄、食事量・内容の修正、排便コントロールなど、個別性に合わせて介入を徹底し、他職種とともに上記疾患の発生予防に努めたいと思います。

感染症拡大の防止について、新型コロナウイルスは未知な部分が多いため、今後も日々の動向をチェックし、最優先課題として職員の意識付け、予防的な働きかけを徹底できるように努めたいと思います。さらに、同時に検討すべき事項として、ご利用者の活動・余暇活動があります。コロナ禍で制限がかかり、充実した生活を阻害している状態です。優先順位を考えると、新型コロナウイルスへの予防は重要です。しかし、次年度はこのような状況下でも、できる範囲で活動性・余暇活動を向上できるように介入したいと思います。

② 医療職－他職種間の連携と教育

研修について、内容の理解度、技術の習得度が、職員によって波がありました。次年度は、職員の全体的な知識、技能向上のため、さらに分かりやすい資料作成・講義準備に努めるとともに、個別的な指導の強化を行い、習得したものを日常勤務で実践できるように働きかけたいと思います。

新型コロナウイルスの予防に関して、引き続き継続した働きかけが必須となります。研修や声かけ、予防対策に関して連携を密にして努めたいと思います。

「ほのぼの」は、職員により使用方法を理解できていないことや、情報収集の習慣化が不完全であり、まだまだシステムを活かせていない部分があると感じています。導入1年目であり、医務室としても慣れることに必死な状態ですが、引き続き効果的な使用ができるように使用方法の模索、指導を行いたいと思います。

③ 皮膚トラブルへの働きかけ

ポジショニング、体位変換、爪きり、食事時の汚染防止などに働きかけました。目標達成できなかった理由として、介護職員のマンパワー不足で多忙により手が回らないことが挙げられました。これには、看護師も介入して確実な実施につなげました。それ以外の原因として、職員の意識付けが弱いと感じることもあります。これが習慣化につながらない原因だと感じています。個別に日々の声かけを強化し、意識づけができるように努めます。

4 自己評価

重点目標に達成できたもの、できなかったものがありますが、医務室として働きかけが不足していた部分も感じます。看護師の知識、技術、意識付けの向上を個別に図る必要性があります。

また、看護師によっては他職種に遠慮していると感じることもあります。全てはご利用者のためであり、看護師として必要と思われることについて、判断や考えを発言できるように働きかけたいと思います。他職種と連携、協働できるように医務室としてできることを再度見直します。

次年度の重点目標を達成する為に、医務室がチームとして、そして他職種と円滑に働きかけることができるように努めたいと思います。

1 重点目標

- ① ご利用者の声が反映でき、食事内容が充実する
- ② ご利用者の健康につながる食事支援を行う
- ③ HACCP の衛生管理方法を取り入れる

2 事業の結果

- ① ご利用者の声が反映でき、食事内容が充実する

令和元年から始めた、ご利用者の食事に対する意見を付箋で伝え厨房が回答する仕組みが定着したことにより、ご利用者にとっては意見を伝え答えてもらえる、厨房にとっては調理や味付けの向上、仕事のやりがいにつながり、双方にとって良い効果が得られました。また、栄養ケアマネジメントについては、職員の理解を深められるよう施設内研修を行いました。

- ② ご利用者の健康につながる食事支援を行う

毎月厨房勉強会の中で、発酵食品を使ったレシピを出し合いました。試作したメニューは、実際に献立に取り入れられ、好評をいただいています。また、厨房職員の嚥下食の理解と調理技術が向上することにより、令和2年度はゼリー食という新しい食形態を導入し、昼食に提供できるようになりました。

- ③ HACCP の衛生管理方法を取り入れる

食品衛生管理では厨房で HACCP の考え方を取り入れ、衛生管理点検表を改訂しました。毎日の記録を通し、HACCP の目的である計画的な衛生管理を行うことで、厨房職員の衛生管理意識の向上につながっています。

3 課題

- ① 付箋の活用により見えてきたことは、ご利用者と厨房とをつなぐには、ご利用者に関わる職員の食事に対する意識の向上が重要ということです。令和3年度は食事委員会に各ユニットの職員が入り、ご利用者の満足につながる食事内容の検討をしていきます。また、厨房職員の調理技術や経験の差からくる調理のバラツキの問題を解消するためにレシピ化を行います。令和2年度は、感染症対策により、デイでの選択食、イベントを制限することになり、行事食も弁当箱での提供になりました。

- ② 厨房勉強会を通し、体によい食品を毎日の食事に取り入れることができましたが、好評の玄米定食は感染症対策により実施を見合わせています。ご利用者の健康増進や目的達成には、栄養ケアの方向性を合わせ他職種が協力して取り組むことが重要です。令和3年度

は改訂される介護保険制度における栄養関連サービスの理解を深め、施設共通のソフトの活用をすすめていきます。

- ③ 食事を提供する厨房職員の食品衛生の意識を高く持ち続ける為には、衛生管理の専門的な知識と衛生管理業務の徹底が必要です。令和3年度は厨房の職員に対して、年5回の食品衛生管理の勉強会を計画しています。

4 自己評価

令和2年度は、施設内での感染対策を重視し、ユニットでの調理や職員も一緒に食べる、行事で集まって食べるなど、今まで勧めてきたご利用者と職員が一緒に楽しむ食事の環境の制限をしました。その一方で、厨房を中心に、嚥下食や体によい食品、調理や味付けなど、食事の中身の検討がされ、ご利用者の満足や健康につながる動きが進みました。施設内の感染対策を強化していくなかで、職員の衛生管理意識が高まっています。厨房職員には専門的な衛生管理の知識と技術の習得が必要となるため、令和3年度は調理技術と合わせて、食品衛生の知識の向上を目指します。また、介護保険制度改正により、今まで以上に専門職によるチームケアが求められています。栄養士としては、特に質の高い栄養ケアサービスが提供できるよう専門性を高め、食を通してご利用者の健康や満足につなげていきたいと考えています。

1 重点目標

- ① 食事を始めとした利用者満足度の追及
- ② 手当て療法の充実
- ③ 個別ニーズへの対応・共有・見直しと職員教育

2 事業の結果

- ① 食事を始めとした利用者満足度の追及

昨年度からご利用者が選択できる食事を定着させてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により食事提供内容の変更をせざるを得なくなりました。そのなかでも、少しでもご利用者に美味しく食べていただける体制を確保し、今後も個々のニーズに応じた提供に努めていきます。

- ② 手当て療法の充実

手当て療法はご利用者に定着したサービスとなりました。看護師が中心となり、体調の変化や日常の悩みを専門的な見地から解決し、安心感や充実感をご利用者が得る機会が増えました。

- ③ 個別ニーズへの対応・共有・見直しと職員教育

個別ニーズに向けての取り組みでは、新型コロナウイルス感染による利用者数の減少を好機と捉え、全職員が積極的にコミュニケーションを図ることで、個々のニーズを深く知ることができました。

3 課題

- ① 食事を始めとした利用者満足度の追及

朝食の取り組みについては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施にはいたりませんでした。

- ② 手当て療法の充実

手当て療法においては、実施できる職員は増えてきましたが職員により小差があるため、来期は一定レベルでの実施ができるよう取り組んでいきます。

- ③ 個別ニーズへの対応・共有・見直しと職員教育

個別ニーズへの対応では、全職員が積極的にコミュニケーションをとり、朝礼等で共有を図りましたが、職員個々の意識や介護力の差を埋めるまでは至りませんでした。

職員教育においては、職員間の意識統一、連携が大きく変化したことで向上は見られま

したが、統一できていない部分もありました。会議等において再度周知していきます。

4 自己評価

令和2年度は、職員間の連携がスムーズになり個々の責任感も強くなりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が減少し大幅な減収と大変厳しい状況となりましたが、来期においては感染予防を徹底する中で増収を図ります。

1 重点目標

- ① 在宅介護に対する総合的かつ包括的な支援
- ② 自己啓発と介護支援専門員としての資質向上

2 事業の結果

- ① 在宅介護に対する総合的かつ包括的な支援

介護・医療の面から自宅で生活するのは難しいと思われていた利用者が、薬剤師・医師への働きかけにより、住み慣れた地域で生活を送ることができました。また、コロナ禍ではありますが、病院での面会・相談員との連携を密に図ることにより、間断無く支援を行った結果、スムーズに自宅での生活に復帰できました。

本人の力ではもちろんのこと、フォーマルサービスだけでは自宅での整理整頓・ゴミ出しが滞りがちだった利用者がおられました。古くからの友人・民生委員といった地域の力を活用して、足の踏み場も無かった部屋を快適な住環境に変えることに成功しました。

- ② 自己啓発と介護支援専門員としての資質向上

圏域のケアマネネットワーク会議で対人援助の手法を学んだことと、奈良市介護福祉課のケアプランチェックを受け、ケアプランの位置づけ・役割を再認識するとともに、普段の支援を見直すきっかけになり、併せて自己啓発や資質向上にもなりました。また、他圏域の地域包括支援センターへの働きかけや、顔の見える関係の構築により利用者の紹介にいたりしました。また、そうした関係づくりの結果、困難事例の早期の在宅サービス復帰へとつなげることができました。専門職サポーター会議への参加も継続して行い、地域包括ケアシステムの構築に向けて、すこしずつではありますが動き出せました。

3 課題

利用者と直接会う機会が減少し、また、担当者会議も照会での開催が多かったため、ニーズの深堀、アセスメント、モニタリングが不十分であったことは否めず、昨年度に比べて、十分な支援ができませんでした。また、サービス利用を自粛することで、ADLの低下、メンタル面で落ち込んだ結果、介護度の悪化につながり、在宅での支援が難しく、入院・入所といった選択肢を選ばざるをえない利用者もありました。コロナ禍においても、インフォーマルな支援の担い手との関係性やネットワークの構築が重要だと再認識させられました。また、各種関係機関とも連携が不十分であり、利用者の状態把握に時間がかかったり、しっかりと伝達できていなかったりということもありました。地域包括ケアシステムの構築がほとんど進んでおらず、次年度の課題です。

4 自己評価

今年度も包括支援センターの主催する研修・会議、地区社協のサポーター会議に引き続き参加して、介護支援専門員の資質向上を図ります。あわせて地域の事業所と「顔の見える関係」づくりに努め、地域包括ケアシステムの構築に努めます。新しい事業所、他圏域の包括支援センターと連携を図ることができ、この関係をより強固にして、利用者のよりよい支援につなげていきたいと思ひます。

利用者数推移表

(単位 人数：人 前年度比：%)

年度		本館		東館		西館	通所		合計
		特養	短期	特養	短期	特養	要介護	要支援	
H24 実績	延人数	19,364	4,949	10,516	3,346		7,898	825	46,898
	(1日当り)	53.1	13.6	28.8	9.2		25.5	2.6	132.8
	前年度比	99.0	103.3	102.5	91.8		110.3	144.2	102.0
H25 実績	延人数	20,020	4,957	10,732	3,572		8,174	1,054	48,509
	(1日当り)	54.8	13.6	29.4	9.8		26.3	3.4	137.3
	前年度比	103.4	100.2	102.1	106.8		103.5	127.8	103.4
H26 実績	延人数	19,767	4,534	10,354	3,381	2,333	7,206	1,212	48,787
	(1日当り)	54.2	12.4	28.4	9.3	6.4	23.2	3.9	137.8
	前年度比	98.7	91.5	96.5	94.7	—	88.2	115.0	100.6
H27 実績	延人数	19,666	4,607	10,791	3,258	3,575	7,535	1,550	50,982
	(1日当り)	53.7	12.6	29.5	8.9	9.8	24.2	5.0	143.7
	前年度比	99.5	101.6	104.2	96.4	153.2	104.6	127.9	104.5
H28 実績	延人数	19,503	1,120	10,614	3,690	3,378	6,557	1,674	46,536
	(1日当り)	53.4	3.1	29.1	10.1	9.3	21.0	5.4	131.3
	前年度比	99.2	24.3	98.4	113.3	94.5	87.0	108.0	91.3
H29 実績	延人数	12,767	668	10,237	3,960	6,913	7,029	1,650	43,224
	(1日当り)	35.0	1.8	28.0	10.8	18.9	22.7	5.3	122.5
	前年度比	65.5	59.6	96.4	107.3	204.6	107.2	98.6	92.9
H30 実績	延人数	12,179	16	9,764	877	9,589	7,299	1,533	41,257
	(1日当り)	33.4	0.0	26.7	2.4	26.3	23.4	4.9	117.1
	前年度比	95.4	2.4	95.4	22.1	138.7	103.8	92.9	95.4
H31 R01 実績	延人数	12,484	73	10,591	1,223	10,780	7,264	1,960	44,375
	(1日当り)	34.1	0.2	28.9	3.3	29.5	23.1	6.2	125.3
	前年度比	102.5	456.3	108.5	139.5	112.4	99.5	127.9	107.6
R02 実績	延人数	12,114	0	10,448	1,329	11,817	4,033	749	40,490
	(1日当り)	33.2	0.0	28.7	3.6	29.2	12.9	2.4	110.0
	前年度比	97.0	0.0	98.6	108.7	109.6	55.5	38.2	91.2
R03 計画	延人数	12,220	0	10,403	1,351	11,753	5,384	960	42,071
	(1日当り)	33.8	0.0	28.5	3.7	28.5	17.2	3.1	114.8
	前年度比	100.9	—	99.6	101.7	99.5	133.5	128.2	103.9